



すべてのこどもに こども時間を



ANNUAL REPORT 2016

2016年度 年次報告書

認定NPO法人日本クリニックラウン協会

c l i n i c l o w n s

認定NPO法人日本クリニックラウン協会は、
入院中のこどもたちがこどもらしく過ごせる「こども時間」を届けています

2016年度クリニックラウン派遣事業 (2016年4月～2017年3月)

病院への訪問回数
263回

派遣クリニックラウン数のべ
577名

訪問病院
44病院

訪問によって関わった
こどもの数
約 8,447名※



2016年度クリニックラウン訪問病院

<近畿> 15 病院

大阪府立母子保健総合医療センター
大阪大学医学部附属病院
大阪府立総合医療センター
堺市立総合医療センター
京都府立医科大学附属病院
兵庫県立こども病院
加古川中央市民病院
近畿大学医学部附属病院
大阪府立急性期・総合医療センター
日本赤十字社大阪赤十字病院
大阪医科大学附属病院
森ノ宮病院
北野病院
兵庫県立尼崎総合医療センター
日本赤十字和歌山医療センター

<中国・四国・九州・沖縄> 10病院

岡山大学病院
香川大学医学部附属病院
愛媛大学医学部附属病院
高知大学医学部附属病院
福岡市立こども病院
熊本大学医学部附属病院
熊本赤十字病院
長崎大学病院
琉球大学医学部附属病院
沖縄県立南部医療センター・子ども医療センター

<中部・北陸> 6病院

福井大学医学部附属病院
富山大学附属病院
静岡県立こども病院
信州大学医学部附属病院
浜松医科大学医学部附属病院
愛知県心身障害者中央コロニー病院

<関東> 7病院

日本大学医学部附属板橋病院
東京慈恵会医科大学附属病院
東京医科歯科大学医学部附属病院
茨城県立こども病院
千葉県こども病院
群馬県立小児医療センター
自治医科大学とちぎ子ども医療センター

<東北・北海道> 6病院

札幌北楡病院
旭川医科大学病院
宮城県立こども病院
東北大学病院
岩手県立大船渡病院
いわき市立総合磐城共立病院

2016年度は、全国44病院を263回訪問！

入院しているこどもたち8,447名に「こども時間」を届けました！

2016年7月よりクリニックラウン熊本支援事業を開始！

2016年7月からクリニックラウン熊本支援事業を開始しました。熊本大学医学部附属病院(計6回)熊本赤十字病院(計1回)の合計7回の訪問を実施しました。

2011年度からの東北支援事業での経験を活かし、心的外傷後ストレス症候群(PTSD)などに代表される震災後の心のケアを念頭に、入院中のこどもたちとその家族の不安の軽減とストレスの解消を目指して、入院中のこどもたちの療養環境の保持に貢献していきます。また、こどもたちを支える病院スタッフの緊張感をやわらげ、バーンアウト(燃え尽き症候群)を防ぐことで、被災地の病院を支えていきたいと考え実施しています。



こどもたちから届いたクリスマスカード



入院中の子どもたちに「子ども時間」をたくさん届けたい！
ひとりひとりのその思いがわたしたちの活動を支えています

訪問先病院から届いた感想

2016年4月の熊本地震からまもなく1年が経とうとしています。少しずつではありますが、地震の記憶は薄れ、元の平穏な生活に戻ろうとしています。しかしながら、震源地となった益城町(ましきまち)や西原村(にしはらむら)ではまだまだ生活に不便を強いられている方々がおられ、元通りの生活に戻ることはまだまだ先のように思えます。私たちの地域では連日のように熊本地震に関連したローカルニュースが流れていますが、出張などで他の地域に赴きますと全くそのような話をメディアで目にするのではなく、東北大震災や福島原発事故ほど甚大な被害もなかったためか、少しずつ風化されていっているのではないかと感じてしまいます。折しもこの原稿を書いている現在、3月11日を数日後に控え、2011年の東北大震災から早6年の月日が経とうとしています。

この原稿文を書くにあたり、日本クリクラウン協会ホームページの2011年特別派遣報告書を拝見させていただきました。そこから伝わってくるものは同じ大震災を経験した医療現場の混乱、疲弊、子ども達とご家族の不安、また復興に向けての強い想いでした。また、あのような環境の中でも子ども達の笑顔を、日常を取り戻そうとご尽力されたクリクラウンの協会の方々の熱い気持ちも伝わってきました。熊本でも2016年7月からのクリクラウン支援事業を受け、たくさんの子ども達、お父さん、お母さんが勇気と笑顔を分けて、または引き出してもらったと感じています。最初は戸惑いを隠せなかった子ども達も、今はクラウンの後を追うほどに打ち解けています。また、付き添われておられるお父さん、お母さんの自然な笑顔を何度も目にする事ができました。改めて震災における子どもとご家族の心のケアに対してどう向き合うべきか考えさせられます。熊本でもそうですが、東北では今もなお復興に向けて頑張っておられる方々が数多くいらっしゃると思います。あの未曾有の災害を経験した我々だからこそ気づき合い、助け合うことの大切さを伝えることができると信じています。「すべての子どもに子ども時間を」このキャッチフレーズを胸に日々の診療をまた頑張ろうと思います。日本クリクラウン協会様のますますのご活躍をお祈り申し上げますとともに、引き続きこの素敵な出会いが末長く続きますように期待を込めて筆を置かせていただきます。

熊本大学医学部附属病院 小児科 医師
興侶雅彦(2017年3月)



入院中の子どもたちの心が動く瞬間を届けたい



「それじゃ、いこうか！」控室から出てきた瞬間、みなさんはすっかりクリニックラウン、でした。つい先ほど挨拶した時の笑顔とは全く違う、陽気な笑顔と音楽を奏でながら踊り歩く姿を目の前にして、クリニックラウン初体験の私もテンションが上がり、患者さんたちが待つ場所まで一緒に踊りながら案内をしてしまいました。

最初、好奇の目で見ていた子どもたちも、次第に目が輝き、クリニックラウンの方たちと一緒に楽しみ、最後には、見ているだけでこちらもつい微笑んでしまうほどの笑顔になっていました。というか、一緒に回らせてもらった私はどの患者さんにも負けないくらい楽しんでいたかもしれません。順番に部屋を回り、患者さんに会いに行ったのですが、待ち切れず、覗きに来ている患者さんもいました。みんなで皿回しをして、お皿をバケツ渡しのようにして大盛り上がりをした病棟もありました。手術後怖がって乗れなかった車いすに、クリニックラウンに会いたい一心で、術後はじめて乗ることができ、医師や看護師をびっくりさせていた患者さんもいました。クリニックラウンの方にお礼の絵をプレゼントしてくれる患者さんもいて、クリニックラウンの方も私も感激しました。反応の少ない患者さんにも関わってもらいましたが、患者さんに合わせた対応をしてくださっていたので、モニターの数値からもリラックスしていると判断でき、また、お母さんから「すごく喜んでます。」と笑顔で教えてもらえる患者さんもいました。反応の仕方はさまざまでしたが、関わって頂いたすべての患者さんが楽しい時間を過ごすことができたと思います。また、すべての患者さんたちの笑顔に加え、付き添いのお母さんたちの喜ぶ顔もとても素敵で、看病で疲れて、苦労しているお母さんたちの癒しにもなったと思います。別紙のアンケートからもわかって頂けると思いますが、とても楽しい時間とステキな笑顔をありがとうございました。



今回、2グループで対応してもらったことで、一昨年と比較して、とても多くの患者さんと触れ合う時間を設けることができ、とてもありがたかったです。それでも、患者さんたちはさよならする時に、名残り惜しそうにクリニックラウンの方を見送っていました。是非来年も2グループで来ていただけると、とても嬉しいです。

今日はたくさんのお母さんたちのために、本当にステキな時間をありがとうございました。

平成28年12月5日
愛知県コロー中央病院 サービス向上・ボランティア推進委員会委員長
加藤 千恵

「笑顔の宅配便」

「クリニックラウンに会える日」のポスターをみて「これなあに?」「クリニックラウンに会える?」と心待ちにしている子ども。来訪してくれる日は朝から、お風呂の時間を心配したり「僕のところにも来てくれるよね?」とわくわくしている様子が伝わってきます。病棟の入り口からハーモニカの軽快な曲が聞こえてくると、どんどんと廊下に出てくる子ども達。いつも閉めっぱなしの病室のカーテンがいつの間にか自然と開いて部屋の中の空気が一気になごみます。制限の多い生活の中で本来の自分らしさを出せない子どもや親が、一瞬にして笑顔になる魔法の力を持っているクリニックラウン。ある男児は週に1度しか家族に会えずいつも寂しい思いをしています。自分の病室の前にクリニックラウンが来たとかかわると「まだ入らないで」と言って、何かいたずらをしようと考えている様子。気長にやりとりをしてくれると、次は「入って来てもいいよ。でも、目を閉じてきて」と、どんどん要求してきます。それに対して、おもしろおかしくパフォーマンスをしながらじっくりと関わりを持ってくれます。たくさん自分の要求を聞いてくれ楽しませてくれた事により、男児は大満足で、ハイタッチを何回もしたり、ハグをしたり、最高の笑顔を見せてくれました。クリニックラウンの絶妙な子どもとの距離感と子どもの心をキャッチするスキルの高さにいつも驚かされ学ばせてもらっています。これからも沢山の子どもや病院スタッフに笑顔のプレゼントを届けてほしいです。いつも元気をありがとうございます。

信州大学医学部附属病院 東4階病棟小児科保育士
大澤 小百合

★ こどもたちや家族や スタッフから届いた手紙(一部紹介)



先日は、病棟訪問をしていただきありがとうございました。念願であったクリニックラウンの訪問が、楽しみでしたが子どもたちがどのような反応をするのか、スタッフは不安で緊張していました。しかし、始まってしまえばあっという間の2時間半で、今までに、感じたことのない楽しい時間でした。始まった瞬間にスタッフの不安は、どこかに吹き飛んでしまって、スタッフが一番楽しんでいたかもしれません。子どもたちも子どもなりに緊張していたのが、クリニックラウンの「ギータヤ」「キャシー」の一人ひとりに合わせた遊びや、接し方で少しずつ笑顔になっていく姿に感動しました。

翌日、ある子どもが「昨日、お皿回したよ。最初からできて楽しかった。」と病室を訪問した時にキラキラした笑顔で話してくれました。そのお母さんは、「痛みで泣くことも多くて、個室での入院で親子共々笑うことが少なかったのでも楽しかったです。こういうのっていいですね。」と思い出しながら話されていました。

また、「クリニックラウンさんからお手紙もらった。また来てほしい」と嬉しそうに話す子どもの姿を見て、病院ではつらかったり寂しかったりすることが多いのですが、少しでも子どもらしく笑顔になれる時間・思い切り笑える時間を日々考えていかなければと勉強にもなりました。子どもらしく過ごせ、笑えるように看護や保育につなげていきたいと思いました。

当院で入院する子どもたちに、今後もクリニックラウンの子どもらしく過ごせる時間や、思い切り笑える時間を届けていきたいと考え、訪問していただけるように準備を開始しています、これからも様々な病院で一人でも多くの子ども達の笑顔のためにご活躍されることをお祈りしています。

2017年1月23日
大阪医科大学附属病院65病棟 スタッフ一同
看護師長 川上 和美 看護部長 西山裕子

2016年度クリニックラウン養成事業

●新規クリニックラウンの養成

2017年3月に新しくクリニックラウンの仲間が3名加わりました!
(現在、26名のクリニックラウンが在籍)



●クリニックラウン研修

クリニックラウンの専門性を高めるために、年間計110時間の研修を実施。のべ300人のクリニックラウンが研修に参加しました。

2016年度クリニックラウン啓発事業

●講演会・ワークショップ・報告会など

クリニックラウンの活動紹介やクリニックラウンの事例報告、こどもと関わる視点と伝える講演会。クリニックラウンの養成トレーニングをもとに、医療教育関係者やこどもと関わる人たちを対象とした研修会やワークショップ。支援者への活動報告会やチャリティイベントなどを開催しました。



- ・主催事業・・・「子ども理解講座」
「クラウンケーションワークショップ」
「RED NOSE DAY with Cliniclowns」
- ・対外的な講演会 36回

●取材協力

掲載誌 8誌
TV・ラジオ 8回
掲載紙など 16誌

2016年度 決算報告

●収支報告

<収入の部>

受取会費	1,038,000円
受取寄附金	20,472,927円
受取民間助成金	11,978,260円
受取公的補助金	0円
自主事業収入	7,989,790円
委託事業収入	0円
その他収益	27,994円
経常収益計	41,506,971円

<支出の部>

事業費	33,421,591円
(うち人件費)	10,122,000円
管理費	5,929,132円
(うち人件費)	3,673,194円
経常費用計	39,350,723円
当期経常増減額	2,156,248円
当期正味財産増減額	2,156,248円
前期繰越正味財産額	36,049,317円
時期繰越正味財産額	38,205,565円

●貸借対照表

<資産の部>

流動資産合計	14,672,874円
固定資産合計	30,492,848円
資産合計	45,165,722円

<負債及び正味財産の部>

流動負債合計	6,960,157円
固定負債合計	0円
負債合計	6,960,157円
正味財産合計	38,205,565円
負債及び正味財産合計	45,165,722円





特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会は、
2016年11月29日に、所轄庁の大阪市から
「認定NPO法人」として認定されました！



みなさまからの寄附金は、寄附金控除の対象になります

★認定NPO法人とは

NPO法人のうち、その運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資することについて一定の要件を満たすものとして、所轄庁の認定を受けた法人のことです。

認定NPO法人である日本クリニックラウン協会へご寄附いただくと、以下の税制優遇を受けることができます。

- ・個人が認定NPO法人へ寄附をすると、「寄附金控除」を受けられます。
- ・法人が認定NPO法人へ寄附をすると、「損金算入限度額」の枠が拡大されます。
- ・相続人が認定NPO法人へ寄附をすると、寄附をした「相続財産が非課税」になります。

★個人によるご寄附の場合

認定NPO法人である日本クリニックラウン協会へ年間2,000円を超える寄附をした場合、次の限度内で「寄附金控除」を受けることができます。なお、所得控除方式と税額控除方式のうち、寄附者が有利な方を選択できます。

●所得控除方式

(寄附金額(総所得金額等の40%が限度) - 2,000円) = 所得控除額

※所得控除額が大きいほど課税対象額が少なくなります。(所得が多い人ほど有利)

●税額控除方式

(寄附金額(総所得金額等の40%が限度) - 2,000円) × 40% = 寄附金控除額(所得税額の25%が限度)

※所得に関わらず原則的に減税額は同じ。

※大阪市、大阪府にお住まいの方の個人住民税でも、税制上の優遇措置を受けることができます。

認定NPO法人に10万円寄附すると所得税額(復興税含む)が最大で40,100円安くなります！

★法人によるご寄附の場合

●特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会にご寄附いただくと、一般寄附金の損金算入限度額以外に別枠で損金算入できるようになります。一般のNPO法人への寄附と比べ、寄附金を経費にできる限度額が高くなります。

●寄附をした日を含む事業年度の確定申告の際に、申告書に必要事項を記載し、申告してください。

●「特定非営利活動に係る事業に係る寄附である」旨などを証した書類(通常は領収証で可)を保存しておく必要があります。

★相続または遺贈によるご寄附の場合

●日本クリニックラウン協会への寄附には相続税がかかりません。

●相続または遺贈により財産を取得された方が、相続税の申告期限内に取得財産などを寄附した場合、寄附をした財産部分には相続税が課税されません。相続税の申告書提出の際に、特例措置の適用を受ける旨を申告書に記入し、申告してください。

●寄附した相続財産の明細書、当団体発行の領収書を添付する必要があります。

(※特例措置を受けるためには相続税の申告期限までに寄附をしていただく必要があります。)



会員継続のお願い

当協会の趣旨に賛同し、ご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。
今後もクリクラウンの活動を継続していくために、会員の継続をお願い申し上げます。

【会員の継続手続きについて】

- ①同封の払込取扱票にて、郵便振替口座に会費を納入してください。

郵便払込口座番号：00920-3-118693

加入者名：特定非営利活動法人 日本クリクラウン協会

賛助会員 個人：年額 一口 3,000円～ 、団体：年額 一口 10,000円～

※賛助会員は、年度ごとの更新になります。継続手続きの時期は、皆様のご都合の良い時にお願いします。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

- ②振込確認後、領収書・会員証を発行いたします。

発行日は振込いただきました翌月の上旬を予定しています。

お早目に必要でございましたら事務局までご連絡ください。

※ご住所、連絡先が変わられた方は、お手数ですが事務局までお知らせください。

★2017年4月より、賛助会員(個人・団体)のみの会員体制になりました!

日本クリクラウン協会の活動にご理解いただき、
ご寄附いただいた皆様のご支援・ご協力のおかげで、
2016年度もたくさんの入院中のこどもたちに「こども時間」を届けることができました。
ありがとうございました。

【正会員】(2016年度分)

<順不同・敬称略>

河敬世、大川洋二、加藤仁義、連利博、井上哲浩、森下左文、石井裕子、上吹越美枝、榎本靖、ヨルン・ボクホベン、高田佳子、伊佐常和、田村亜紀子、熊谷恵利子

【活動会員】(2016年度分)

熊谷亮、久禮千秋、込山志保子、斎藤香織、坂谷操、佐々木守、白木原達仁、隅田龍雄、隅野友紀、高月和光、武田由紀、竹富み子、田中裕二、玉川哲也、玉川裕美、田村莉絵、土山雅人、時貴俊子、直理うみ、中川正子、中野栄知、新妻秀剛、西本友友美、林優里、東田素美子、藤崎めぐみ、藤本真実子、宮崎史子、本村哲治、森下弥生、森田知子、山田ゆかり、吉成隆、吉成由利子、渡辺彩子、渡辺京、宇田川絵未、吾郷チエ子、高木千恵子、山田豊、紙森崇時、大塚泰文、仲野恵子、田中秀康、本庄孝行、齋藤安以子、浅井真咲、安部博見、池上朋未、石井泰雄、泉勇史、上地耕司、上原英幸、江頭千治、大沢洋平、大角次夫、大角礼子、岡村隆行、小瀬弘之、柿澤美保、金子正憲、川島由依、城井寛奈、熊谷和喜子、熊谷多希子、山根俊一、小早川房平、直理むつる、直理直年、金城僚、元気福祉サービス、匿名希望など

【賛助会員】(2016年度分)

泉尾健太郎、飯塚憲央、池田純子、井上雅美、今敏之、医療法人社団吉本会よしもと小児科理事長吉本寿美、上田崇志、植田由喜子、枝光尚美、岡本裕之、奥才子、鎌田久子、菊池好江、木村源一、木村林、久米俊之、国際ソロプチミスト堺会長小林美佐子、齋藤利子、坂井晶子、城間昇、須釜なつみ、大治みのり、竹中弘繁、玉越律子、辻亨、東京医科歯科大学小児科、鵜田純一、中嶋起佐子、野田北ふるさとネット、信川美知子、長谷川香、浜崎順子、林郁、林富、東尾喜美子、広瀬純子、増田雪江、松本順子、森口寿栄美、森下裕二、焼野嘉津人、藪崎和美、山内順子、山田さく、山田裕生、山田雅彦、和田享子、綾城重幸、伊藤潤、岡島明美、加藤總子、吉田由紀、橋美保子、吾郷チエ子、黒木徳子、佐藤礼子、山崎秀子、寺田大成、社納葉子、小島健吾、小島敬子、石井善雄、川上恵子、泉裕、泉尾喜美子、浅山文枝、中内清馨、中野敦雄、田代博之、渡辺修、藤田みのり、片山修司・朋子、豊田成子、本村哲治、木川直美、濱田雅裕、澤田明久、小原典子、沖高司、秋山星吉、中山敏幸、いわき市立総合磐城共立病院、匿名希望など

【寄付・助成など】(2016年度分)

丸岡望(有)モードマツシタ、HARVEY PAUL A.S., teamあごら・河内長野市、浅井真咲、浅野勝己、芦名ペーカリー 芦兵衛、安部博見、荒木広美、伊佐常和、石井俊之、石井裕子、一原望希、一般財団法人H2Oサントラ H2Oリテイリング株式会社 株式会社阪急阪神百貨店、今井和江、今泉益栄、江頭千治、エムアンドエルジャパン株式会社、大阪ガス株式会社 大阪ガスグループ小さな灯運動、大阪そねざきロータリークラブ、大沢洋平、岡大輔、小澤あづさ、小瀬弘之、甲斐志帆、門隆志、加藤仁義、上吹越美枝、紙森崇時、川島由衣、川田葉子、金城僚、楠本みち子、窪田俊行、熊谷恵利子、黒木徳子、グンゼ株式会社 グンゼアブアース倶楽部、公益財団法人パブリックリソース財団 GIVE ONE、国際ソロプチミスト堺、湖南・甲賀市保育士会、小林見、小林靖、小林礼治、斎藤香織、齋藤賑二、桜井真由美、佐藤裕子、サンワサプライ株式会社、四国医療専門学校、柴田隆啓、ジョン・カピラ、白ハト食品工業株式会社、杉山澄子、大治みのり、高月和光、田中裕二、土山雅人、豊島株式会社 Orgabits×クリクラウンプロジェクト、長井恵子、中嶋純子、木本伸泰、流目壽子、日本アトピー協会、野手宏昭、灰谷政之、橋本英郎、長谷川恵美、鳩場豪、林郁、東田素美子、福田美和子、藤本真実子、堀由貴子、堀江昌史、前田重治、松寺佐知子、三上喜生、南野良子、宮崎聖、宮本正大、森下左文、山岡浩英、山口幸子、山下幸恵、山田敏之、山田延子、山田ゆかり、山田ゆみ子、山本利一、有限会社秋山輪業商會代表取締役及川勝徳、有限会社あぶらだ保険、ヨルン・ボクホベン、渡辺卓、宇田川絵未、岡嶋優子、沖縄県立南部医療センター有志、加藤總子、久米俊之、近畿労働金庫 近畿ろうきん「社会貢献預金・すまいる」、吾郷チエ子、高橋雄一、滋賀社会福祉研究交流会実行委員会有志、浄土真宗本願寺派親水山西念寺、須佐紀雄、正田孝明、西宮キワニスクラブ、石川県オランダ協会会長新谷寿久、千葉雅隆、大崎守一、大倉昭子、大塚泰文、地方独立行政法人堺市立病院機構堺市立総合医療センター、竹端年恵、中内清馨、中尾桂子、中野敦雄、田中丈夫、藤川美景・さくら、藤本利行、必守行男、富田康之、文野久美子、平澤武志、野村哲二郎、眞弓光文、齋藤安以子、一般社団法人日本メイスン財団、公益財団法人日本財団「TOOTH FAIRYプロジェクト」、公益財団法人日本歯科医師会、アステラス製薬株式会社 フライングスター基金、公益財団法人ベネッセこども基金、清水ロータリークラブ、公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団、武田薬品工業株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社 ゆめまち基金、特定非営利活動法人ピハール福井、江崎グリコ株式会社、岩越祥晃、江口智子、匿名希望など



発行：2017年12月

認定NPO法人 日本クリクラウン協会 事務局

〒530-0053大阪市北区末広町3-11 天しもビル3B

T E L : 06-4792-8716 F A X : 06-4792-8746

E-mail: info@cliniclowns.jp HP: http://www.cliniclowns.jp